

鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院 在宅医療推進のための看護師育成支援事業

令和7年度

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

シラバス



Home Oriented Care

鳥取大学医学部附属病院
医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室



令和7年12月10日 現在

令和7年度 シラバス 目 次

| | |
|----------------------------------|--------|
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（基礎1年次） | P. 1～ |
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（基礎2年次） | P. 7～ |
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（実践コース） | P. 13～ |
| II 在宅医療・看護体験コース | P. 19～ |
| III 訪問看護能力強化コース | P. 25～ |

※研修内容については予定です。変更になる場合がございます。

鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

【基礎 1 年次】

令和7年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

«基礎1年次»

【目的】 病院看護師が在宅生活志向を高めることができる。

【目標】 1. 患者の入院前・退院後の生活を意識することができる。

2. 患者が地域・在宅療養へ移行するために、病院看護師として
多職種との連携の必要性を理解することができる。

令和7年度 I在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎1年次」

集合研修とHOCノートによる個人課題で行います

| | | |
|-------|-------|-----------------------|
| 個人課題① | ね ら い | 受講生自身が受講動機を意識する |
| | 課 題 | HOCノート P.1 を記入 |

| | | |
|---------|-------|--|
| 第1回集合研修 | 日 時 | A :令和7年 7月 3日 (木) / B :令和7年 7月 4日 (金) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面60分): 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学 医学部記念講堂 |
| | ね ら い | 新人看護師が、在宅生活志向の必要性を知る。 |
| | 研修内容 | ○講 義 (オンデマンド視聴 (60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「患者を生活の場に戻すために必要な視点」 ○グループ討議 (対面60分) 「事例より看護連絡票の活用方法について考える」 |
| | 講 師 | ◇ ^{きむら} 木村 ^{きみえ} 公恵 : 鳥取大学医学部附属病院 副看護部長 |
| | 課 題 | HOCノート P.2~3 を記入 |

| | | |
|-------|-------|-------------------------|
| 個人課題② | ね ら い | 受講生自身が「今年度の私の目標」を明確にする |
| | 課 題 | HOCノート P.4~5 を記入 |

| | | |
|-------|-------|-------------------------|
| 個人課題③ | ね ら い | 受講生が所属施設の退院システムについて知る |
| | 課 題 | HOCノート P.6~7 を記入 |

| | | |
|--------|-------|------------------------|
| 中間自己評価 | ね ら い | 受講生が自己評価をする |
| | 評 価 | HOCノート P.30 を記入 |

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 第16回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和7年 9月28日(日) 10時00分～ 15時00分 |
| | 会 場 | 県立厚生病院 |
| | ね ら い | T-HOC 受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | シンポジウム、ワークショップ |
| | 講 師 | シンポジウム 座 長：孫 大輔 氏 鳥取大学医学部地域医療学講座 医師 シポジスト：谷口 和子 氏 鳥取県鳥取県福祉保健部 参事 瀬尾 勇仁 氏 緩音訪問看護ステーション 訪問看護師 ワークショップ 進行・総括：孫 大輔 氏 |

| | | |
|---------|-------|---|
| 第2回集合研修 | 日 時 | A ：令和7年10月15日(水) / B ：令和7年10月22日(水) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分～14時00分 ・グループ討議(対面60分)：14時00分～15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学 医学部記念講堂 |
| | ね ら い | 訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ。 |
| | 研修内容 | ○講 義(オンデマンド視聴(60分)各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「訪問看護ステーションの出向から見た病院看護師の退院支援」 ○グループ討議(対面60分) 「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けばいいか考えよう」 ＜Iコース(1年次)・IIコース合同＞ |
| | 講 師 | ◇ 出向経験看護師 ^{あだちようこ たにぐちまゆみ} 足立洋子、谷口真弓 |
| | 課 題 | HOCノート P.8～9 を記入 |

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 個人課題④ | ね ら い | 実際にあなたが行った退院支援について振り返る |
| | 課 題 | HOCノート P.10~11 を記入 |

| | | |
|---------|-------|---|
| 第3回集合研修 | 日 時 | A : 令和8年1月9日 (金) / B : 令和8年1月19日 (月) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面 60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ね ら い | 実際に訪問看護師として活動している若手訪問看護師、新卒訪問看護師の報告や、意見交換により退院支援に必要な視点を理解できる。 |
| | 研修内容 | ○講 義 (オンデマンド視聴 (60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「well being を支える看護」 「若手訪問看護師の実際」 ○グループ討議 (対面 60分) 「事例から社会資源を考える」 |
| | 講 師 | ◇ ^{あだち ゆみえ} 安達 弓恵 : 訪問看護ステーション コミケア ◇ ^{まつもと あやか} 松本 彩花 : 訪問看護ステーション友喜 |
| | 課 題 | HOCノート P.12~13 を記入 |

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 個人課題⑤ | ね ら い | 2年目に向けての目標を明確にする |
| | 課 題 | HOCノート P.14~15 を記入 |

| | | |
|----------|-------|------------------------|
| 1年目の自己評価 | ね ら い | 受講生が自己評価をする (10点評価) |
| | 評 価 | HOCノート P.30 を記入 |

| | | |
|-------------------------|-----|--------------------------------|
| 第17回 T-HOC 特別セミナー | 日 時 | 令和8年 3月 7日 (土) 10時30分 ~ 12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

Iコース（1年次）に関するページはQRコードから確認できます。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

【基礎2年次】

令和7年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

«基礎2年次»

- 【目的】 病院看護師が在宅生活志向に基づいた入退院支援を実践できる。
- 【目標】 1. 患者の入院前・退院後の生活について必要な情報を得てアセスメントし、その人にあった入退院支援を実践できる。
2. 適切な入退院支援をするために多職種と連携できる。

令和7年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎2年次」

集合研修とHOCノートによる個人課題で行います。

| | | |
|---------|------|---|
| 第4回集合研修 | 日時 | A : 令和7年 6月20日 (金) / B : 令和7年 6月25日 (水) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ねらい | 在宅生活志向に必要な知識の確認ができる。 |
| | 研修内容 | ○講義 (オンデマンド視聴 (60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「退院後の生活を見据えた看護活動と在宅療養に必要な資源 ～介護保険・医療保険の仕組み～」 ○グループ討議 (対面60分) 「事例を基にどのようなサービス・指導が必要か考える」 |
| | 講師 | こやま まさみ ◇ 小山 雅美 : 真誠会医療福祉連携センター センター長 |
| | 課題 | HOCノート P.18~19 を記入 |

| | | |
|-------|------|--|
| 個人課題⑥ | | 受け持ち患者への退院支援インタビュー (1事例目) あなたが受け持った退院支援を行った患者 (チームで関わった患者) が退院後に、①外来に来られた際、②退院支援カンファレンス参加、③退院前家庭訪問 のいずれかで退院後の生活を聞いて、自分の行った退院支援について振り返りを行う。 インタビューは2事例行いますが、HOCノートの提出は <u>1事例ずつ提出</u> 。 |
| | ねらい | 退院支援を行った受け持ち患者より、実際に退院してからの生活・受講生の退院支援の内容を再確認することができる |
| | 1事例目 | HOCノート P.20~21 を記入 |

| | | |
|---------|-------|---|
| 第5回集合研修 | 日 時 | A : 令和7年 9月 9日 (火) / B : 令和7年 9月18日 (木) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ね ら い | 担当看護師、認定看護師、退院支援専任看護師らと訪問看護師、保健師、地域の行政機関等との連携した退院支援の取り組みを学び、担当看護師役割を明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講 義 (オンデマンド視聴 (60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「退院後の生活を見据えた病院看護師と訪問看護師の連携」～新生児・小児編～ ○グループ討議 (対面60分) 「在宅療養を支援する担当看護師としての役割～多職種との連携を図って～」 |
| | 講 師 | ◇安達 香奈 : 鳥取大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 |
| | 課 題 | HOCノート P.22～23 を記入 |

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 第16回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和7年 9月 28日 (日) 10時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 県立厚生病院 |
| | ね ら い | T-HOC 受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | シンポジウム、ワークショップ |
| | 講 師 | シンポジウム 座 長 : 孫 大輔 氏 鳥取大学医学部地域医療学講座 医師 シロジスト : 谷口 和子 氏 鳥取県鳥取県福祉保健部 参事 瀬尾 勇仁 氏 緩音訪問看護ステーション 訪問看護師 ワークショップ 進行・総括 : 孫 大輔 氏 |

| | | |
|--------|-------|---------------------|
| 中間自己評価 | ね ら い | 受講生が自己評価をする (10点評価) |
| | 評 価 | HOCノート P.31 を記入 |

| | | |
|-------|-------|--|
| 個人課題⑦ | ね ら い | 受け持ち患者への退院支援インタビュー (2事例目) 退院支援を行った受け持ち患者より、実際に退院してからの生活・受講生の退院支援の内容を再確認することができる |
|-------|-------|--|

| | | |
|--|-------|---------------------------|
| | 2 事例目 | HOCノート P.24～25 を記入 |
|--|-------|---------------------------|

| | | |
|---------------------------|--------|---|
| 受け持ち患者への退院支援インタビュー後の意見交換会 | 日 時 | A : 令和7年11月18日 (火) 13時30分～15時 B : 令和7年11月21日 (金) 13時30分～15時 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ね ら い | 受け持ち患者への退院支援インタビューを実施後、他の受講生と情報交換し、実施できている点と課題となることを明確にすることができる。 |
| | 研修内容 | ○グループ意見交換 退院支援をした患者から「外来受診時の体験」「退院支援のカルパス参加」「退院前・退院後家庭訪問」等で聞き取った内容より自分の行った退院支援を振り返る 今後退院支援を行う上での自分自身の課題を見つける |
| | アドバイザー | 受講生所属先の地域連携担当者 ◇ 岩美病院 ◇ 県立中央病院 ◇ 尾崎病院 ◇ 県立厚生病院 ◇ 日野病院 ◇ 米子医療センター ◇ 日南病院 ◇ 博愛病院 ◇ ライブアシスト ◇ 鳥取大学医学部附属病院 |
| | 課 題 | HOCノート P.26～27 を記入 |

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 個人課題⑧ | ね ら い | このコースを通しての学びと今後の課題を明確にする |
| | 課 題 | HOCノート P.28～29 を記入 |

| | | |
|----------|-------|------------------------|
| 2年間の自己評価 | ね ら い | 受講生が自己評価をする (10点評価) |
| | 評価内容 | HOCノート P.31 を記入 |

| | | |
|-------------------------|-----|--------------------------------|
| 第17回 T-HOC 特別セミナー | 日 時 | 令和8年 3月 7日 (土) 10時30分 ~ 12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

Iコース（2年次）に関するページはQRコードから確認できます。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

【実践コース】

令和7年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

《実践コース》

【目的】基礎コース（2年間）を修了した者が実践を通して在宅生活志向を高める。

【目標】1.病院看護師の在宅生活志向を強化し、退院支援の実践に活かすことができる。

2.患者とその家族が、在宅療養を送るために必要な地域の資源を提供することができる。

3.多職種との連携を加味した退院支援を実践することができる。

令和7年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「実践コース」

集合研修、HOCプラスノートによる個人課題及び各実習を行います

| | | |
|-----|-------|--------------------------|
| 課題① | ね ら い | 受講生自身が目標を明確にする |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.1 を記入 |

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 第1回 集合 研修 | 日 時 | 令和7年 6月12日 (木) 10時50分～12時20分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ね ら い | 訪問看護師の役割を知ることで、生活を中心とした看護の視点を明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講 義 「訪問看護師の役割・機能・特性」 ＜実践コース・Ⅱコース・Ⅲコース合同＞ |
| | 講 師 | ◇ ^{つばくら まゆ} 坪倉 真由：すまいる訪問看護リハビリステーション所長 |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.2～3 を記入 |

| | | |
|--------------|-------|--|
| 訪問看護ステーション実習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 (5日間) |
| | ね ら い | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課 題 | ◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

| | | |
|------------------|-------|--|
| 地域包括支援 センター実習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 (1日) |
| | ね ら い | 地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている 地域住民への働きかけを知る。 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した地域包括支援センター ※実習要項参照 |

| | | |
|--------------|-------|-------------------------------|
| 訪問診療 同行実習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 (1日) |
| | ね ら い | 在宅療養者の生活を支援する一つである訪問診療の実際を知る。 |
| | 実 習 先 | 中・西部の指定した在宅療養診療所 ※実習要項参照 |

| | | |
|----------------------------|---------|--|
| 退 院 支 援 実 習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 |
| | ね ら い | 退院前カンファレンスの参加、自宅訪問等を通じて患者の生活を理解し、より具体的な退院支援の視点を持つ。 |
| | 実 習 方 法 | ① 退院支援が必要な患者の中で、退院前カンファレンスの実施や退院後に自宅等へ訪問できる対象者を1事例選択する。 ② 退院前カンファレンスの参加、退院前・退院後家庭訪問などを含めた退院支援を行う。 ③ 自分が行った退院支援を振り返る。 ・退院支援どの程度の個別性が加味されていたか。 ・具体的な退院支援が行えていたか。 など |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.6～9 を記入 |

| | | |
|---|-------|--|
| 第16回 T-HOC 2回 集合 研修 (特別セミナー) | 日 時 | 令和7年 9月28日(日) 10時00分～15時00分 |
| | 会 場 | 県立厚生病院 |
| | ね ら い | T-HOC受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | シンポジウム、ワークショップ |
| | 講 師 | シンポジウム 座 長：孫 大輔 氏 鳥取大学医学部地域医療学講座 医師 シンポジスト：谷口 和子 氏 鳥取県鳥取県福祉保健部 参事 瀬尾 勇仁 氏 緩音訪問看護ステーション 訪問看護師 ワークショップ 進行・総括：孫 大輔 氏 |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.4～5 を記入 |

| | | |
|-----------|--------|---|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和7年 12月 11日 (木) 13時30分～ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 実習で学んだことを他の受講生と共有して学びを深めることにより、今後の看護実践に活かすことができる。 ＜実践コース・Ⅲコース合同＞ |
| | 研修内容 | ≪報 告≫ ○実習を通しての学びと感想 ≪グループ討議≫ ○実習での学びから自己の課題を明確にする |
| | アドバイザー | ◇ 倉本 純子：ぱぷりか訪問看護ステーション代表取締役 |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.10～11 を記入 |

| | | |
|---------|-------|--|
| 第3回集合研修 | 日 時 | 令和8年2月3日 (火) 13時30分～ 16時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 3年間の学びを、今後の看護活動にどのように反映するか明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講 義 「在宅生活志向の看護の実践に向けて」（Ⅲコースと合同） ○グループ討議 「T-HOCでの学びを今後の在宅生活志向の看護にどのように活かすか」 |
| | 講 師 | ◇ いわもと たいき 岩本 大希： ウィル訪問看護ステーション 所長 (Web) |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.12～13 を記入 |

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 自己評価 | ね ら い | 受講生自身が自己評価する (10点評価) |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.14～15 を記入 |

| | | |
|---------------------------|-----|--------------------------------|
| 第 回 T-HOC 特別セミナー | 日 時 | 令和8年 3月 7日 (土) 10時30分 ~ 12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

I コース (実践) に関するページは QR コードから確認できます。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

Ⅱ 在宅医療・看護体験コース

令和7年度 II在宅医療・看護体験コース

【目的】 3年目以上の看護職（准看護師を含む）、未就業の看護職経験者が、在宅で生活できるための具体的な患者支援方法について体験し、実践することができる。

【目標】 体験実習により、患者の生活をイメージする力を養成する。

- 1.退院後の患者の生活をイメージする力を養成する。
- 2.在宅療養者及び家族に対して果たす役割・機能・特性を理解する。
- 3.患者が療養の場を移行する際に、看護の継続性を重視したマネジメントができる。

令和7年度 II在宅医療・看護体験コース

| | | |
|---------|-------|---|
| 第1回集合研修 | 日 時 | 令和7年 6月12日（木） 10時40分～15時 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ね ら い | ・訪問看護師の役割や、実際の業務について学ぶ。 ・介護保険のサービス利用に至る過程や、在宅医療体制の中での訪問看護の役割を学ぶ。 |
| | 研修内容 | <p>10時50分～12時20分 ○講義 訪問看護師の役割・機能・特性 <実践コース・Ⅱコース・Ⅲコース合同> ◇^{つばくら まゆ}坪倉 真由： すまいる訪問看護リハビリステーション所長</p> <p>13時30分～15時 ○講義 医療保険・介護保険の仕組み ◇^{いけだ のぶお}池田 伸夫： 北栄町福祉課地域包括支援センター センター長</p> |

| | | |
|---------|-------|---|
| 第2回集合研修 | 日 時 | 令和7年8月6日（水） 13時30分～15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 （第二中央診療棟2階） |
| | ね ら い | 多職種連携の中でみえる地域での看護師の役割を学ぶ。 |
| | 研修内容 | ○講 義 「安心して在宅で暮らすために～在宅看護の力～」 ○グループ討議「地域を見据えた退院支援を進める為に今、実践する事」 |
| | 講 師 | ◇ ^{せお ゆうじん} 瀬尾 勇仁： 緩音（やわらね）訪問看護ステーション 管理者 |

| | | |
|-----------|-------|---|
| 退院後家庭訪問実習 | 日 程 | 令和7年7月～10月 |
| | ね ら い | 入院・入所中に退院支援を行った患者に対して、退院後訪問を行い、実際の在宅療養生活を理解するとともに、自己の看護実践を振り返る。 今後の施設内での看護に必要なことは何かを明確にし、より専門的に個別性をふまえて退院に向けての 支援を計画できる能力を養う。 |
| | 実習方法 | 退院支援を行った事例の中から、在宅療養者の了承を得て家庭訪問を行う。 ※訪問対象者、訪問時期、訪問形式等はそれぞれの所属部署管理者（看護師長など）と相談して決定してください。 *対象（事例）に困られた場合は、T-HOC 支援室へご相談ください。 |
| | 課 題 | ◆退院後家庭訪問実習レポート ※実習要項参照 |

| | | |
|------------------|-------|--|
| 訪問看護 ステーション実習 | 日 程 | 令和7年 7月～10月 (3～5日間) |
| | ね ら い | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課 題 | ◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

| | | |
|--|-------|--|
| 第16回 T-HOC 特別セミナー 第3回 集合研修 | 日 時 | 令和7年 9月28日(日) 10時00分～15時00分 |
| | 会 場 | 県立厚生病院 |
| | ね ら い | T-HOC 特別セミナーに参加し T-HOC 受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | シンポジウム、ワークショップ |
| | 講 師 | シンポジウム 座 長：孫 大輔 氏 鳥取大学医学部地域医療学講座 医師 シンポジスト：谷口 和子 氏 鳥取県鳥取県福祉保健部 参事 瀬尾 勇仁 氏 緩音訪問看護ステーション 訪問看護師 ワークショップ 進行・総括：孫 大輔 氏 |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 第4回 集合研修 | 日 時 | 令和7年10月15日(水) / 10月22日(水) のいずれかに参加 13時00分～15時00分 ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分～14時00分 ・グループ討議(対面60分): 14時00分～15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ね ら い | 訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ。 |
| | 研修内容 | ○講 義 (会場にて動画視聴(60分)) 「訪問看護ステーションの出向から見た病院看護師の退院支援」 ○グループ討議「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けばいいか考えよう」 ＜Iコース(1年次)・IIコース合同＞ |
| | 講 師 | ◇ 出向経験看護師 <small>あだちようこ たにぐちまゆみ</small> 足立洋子、谷口真弓 |

| | | |
|-----------|--------|--|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和7年 12月 15日 (月) 13時30分～15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 実習で学んだことを他の受講生と共有して学びを深めることにより、今後の看護実践に活かすことができる。 |
| | 研修内容 | «報 告» 実習を通しての学びと感想 «グループ討議» 実習での学びから自己の課題を明確にする |
| | アドバイザー | ◇ ^{つぼくら} 坪倉 ^{まゆ} 真由 : すまいる訪問看護リハビリステーション所長 |

| | | |
|-----------------|-----|------------------------------|
| 第17回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和8年 3月 7日 (土) 10時30分～12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

IIコースに関するページはQRコードから確認できます。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

Ⅲ訪問看護能力強化コース

令和7年度 Ⅲ訪問看護能力強化コース

【目的】受講生のニーズに応じて訪問看護師に必要な知識、技術の向上を図る。

【目標】訪問看護師に必要な知識・技術の向上を図るとともにリーダー的役割を実践する。

- 1.在宅療養者及び家族を全人的に捉え、専門的な知識と質の高い看護を提供できる。
- 2.在宅療養者が療養の場を移行する際に、医療と介護の連携、看護の継続性を重視したマネジメントができる。
- 3.より質の高い医療を推進するため、多職種と協働しチームの一員として役割を果たすことができる。
- 4.地域包括ケアシステムを効果的に活用した療養者支援の質向上のため、看看連携におけるリーダーとして地域の人材育成の役割を果たすことができる。

令和7年度 Ⅲ訪問看護能力強化コース

| | | |
|------|--------------|---|
| 必須講義 | 日 時 | 令和7年 6月12日(木) 9時～12時10分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | ね ら い | ID103：訪問看護師の役割や、実際の業務について学ぶ ID601：訪問看護実践に役立つ概念や理論を知り、実践への活用について考えることが出来る |
| | 講義 ID 103 | (10時50分～12時20分) ○訪問看護師の役割・機能・特性 <実践コース・Ⅱコース・Ⅲコース合同> |
| | 講 師 | ◇ ^{つぼくら まゆ} 坪倉 真由：すまいる訪問看護リハビリテーション所長 |
| | 講義 ID 601 | (9時～10時30分) ○訪問看護実践に役立つ概念・理論 |
| | 講 師 | ◇ ^{にしな ゆうこ} 仁科 祐子：鳥取大学医学部 保健学科 地域・精神看護学講座 教授 |

| | | |
|----------------------|-------|--|
| 訪問看護 ステーション 実習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 (2～3日間) |
| | ね ら い | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課 題 | ◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

| | | |
|--------------------------|-------|---|
| 地域包括 支援 センター 実習 | 期 間 | 令和7年 7月～12月 (1日) |
| | ね ら い | 地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている地域住民への働きかけを知る。 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した地域包括支援センター ※実習要項参照 |

| | | |
|-----------|---------|--|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和7年 12月 11日（木） 13時30分～15時 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟 6階 261 講義室 |
| | ね ら い | 実習で学んだことを他の受講生と共有して学びを深めることにより、今後の看護実践に活かすことができる。 |
| | 研 修 内 容 | «報 告» ○実習を通しての学びと感想 «グループ討議» ○実習での学びから自己の課題を明確にする <実践コース・Ⅲコース合同> |
| | アドバイザー | ◇ 倉本 純子：ぱぷりか訪問看護ステーション代表取締役 |

| | | |
|-----------------|-----|-----------------------------|
| 第17回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和8年 3月 7日（土） 10時30分～12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ （未定） 講 師 （未定） |

Ⅲコースに関するページは QR コードから確認できます。➡



＜選択講義＞

| | | | |
|-------------------------------|--|----------------|---------------------------|
| ねらい | 訪問看護師に必要な知識・技術の向上を図る | | |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none">● 受講生が習得したい分野に関連する科目を中心に30講義以上を受講する。● 必須講義 (ID103・ID601) (必ず受講する。● 訪問看護に関する学会・研修会・鳥大看護部コース研修への参加についても30講義に含めることができる。 <p>(但し、看護部コース研修は1コースの講義数のみ、学会・研修会については最大2つまでとする)</p> <ul style="list-style-type: none">● 30講義以上受講し、「Ⅰ在宅医療の社会システム」「Ⅱ在宅医療に必要な病態学」「Ⅲ訪問看護に必要な技能」の中から各1講義以上を受講した方は「T-HOC在宅支援ナース」として認定証及び「ツ」を授与いたします。 | | |
| 科目 | Ⅰ在宅医療の社会システム | 1.地域包括ケアシステム | |
| | Ⅱ在宅医療に必要な病態学 | 2.在宅医療病態論 | |
| | Ⅲ訪問看護に必要な技能 | 3.在宅における医療処置管理 | 7.家族支援 11.指導 |
| | | 4.在宅薬剤管理 | 8.エンド・オブ・ライフケア 12.看護倫理 |
| | | 5.デジタルアセスメント | 9.対人関係 13.看護技術 |
| | | 6.セルフケア支援 | 10.リーダーシップ |
| Ⅳ訪問看護に必要な知識の習得のための研修会や、学術集会参加 | | | |

※ 【学部限定講義】 (併掛けの講義)・・・保健学科の学生と一緒に聴講します。

※ 【公開講義】 (★の講義)・・・Ⅲコース以外の受講生、学外の医療従事者等に公開します。
(全コース受講生、在宅看護に興味のある方、地域医療に従事する方など)

✳T－HOC講義時間

| | |
|-----|-------------|
| 1時限 | 9:00～10:30 |
| 2時限 | 10:40～12:10 |
| 3時限 | 13:00～14:30 |
| 4時限 | 14:40～16:10 |

【重要！】 講義によっては、上記の時間と異なる場合があります。
受講前には、必ず「講義時間・講義室」を確認してください。

I 在宅医療の社会システム

1. 地域包括ケアシステム

医療・介護サービス提供体制、地域包括システムの概念、多職種連携、訪問看護師の役割・機能・特性、退院調整のケアマネジメントについて理解する。

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | | 講義内容 | 講義室 |
|-----------|--------------------------------|---------------------------------------|--------------------|--------------------------|--|----------------------------|
| 0101 | 10月30(木) 10:40～12:10 | 地域包括ケアシステムの概念・機能 | おおはま しんや 大濱 伸也 | 米子市尚徳地域包括支援センター | 地域包括ケアシステムについての概念や事業内容、地域包括ケアシステム構築のための取り組みなどについて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0102 | 8月20(水) 13:00～14:30 | 訪問看護の制度とその活用 | はせがわ ようこ 長谷川 洋子 | 元名古屋女子大学健康科学部看護学科在宅看護学 | 訪問看護制度の歴史、訪問看護に関する制度、訪問看護で介護保険と医療保険の使い分けについて学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0103 | 6月12日(木) 10:50～12:20 | ※必須 訪問看護師の役割・機能・特性 (※実践・Ⅱコース合同) | つばくら まゆ 坪倉 真由 | すまいる訪問看護ハピステーション | 訪問看護に求められる看護の視点と、訪問看護師の基本姿勢と責務や役割、実際の業務について学ぶ。 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| 0104 | 8月5日(火) 14:40～16:10 | 在宅における診療報酬 | いしばし さちこ 石橋 佐智子 | 訪問看護ステーション博愛 | 介護保険、医療保険の制度や訪問看護の現場での保険の使い分けや加算などについて講義 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| ★ 0105 | 8月5日(火) 13:00～14:30 | 地域医療と訪問看護(案) | いのうえ かずおき 井上 和興 | 大山診療所/鳥取大学医学部 地域医療学講座 | (在宅におけるチーム医療の基本を学び、多職種とどのような協働を行うか、チーム医療で生じる問題を解消するための連携のポイントなどを学ぶ) | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0106 | 令和8年 2月3日(火) 13:30～16:00 | 在宅生活志向の実践に向けて (実践コース・Ⅲコース合同) | いわた たいき 岩本 大希 | ウィル訪問看護ステーション | 「全ての人に帰る選択肢を」を mission に、24 時間 365 日、全ての人を対象に在宅看護サービスを提供している取り組みから在宅生活志向の視点や家族の定義、ストレングスモデルなどについて講義。 | アレスコ棟6階 261講義室 |

Ⅱ 在宅医療に必要な病態学

2. 在宅医療病態論

複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の病態・治療・看護について理解する。医療依存度の高い在宅療養者の病態・治療・看護を理解する。

終末期在宅療養者の病態・治療・看護について理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講 義 名 | 講 師 | | 講 義 内 容 | 講義室 |
|-----------|---|---|--------------------------|---------------------------|--|----------------------------|
| 0201 | 10月30日(木) 14:40～16:10 | 在宅医と訪問看護師との協働 | さ さ き しゅうじ 佐々木修治 | 在宅ケアクリニック米子 | | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| ★ 0202 | 10月30日(木) 13:00～14:30 | 在宅医療における整形外科的疾患 (骨粗鬆症など) | お さ き 尾崎 まり | 鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 | 骨の役割を始めとして老化、骨粗鬆症の病態と薬物 治療、骨粗鬆性骨折の所見や画像、治療などについ て講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0203 | 11月12日(水) 10:40～12:10 | 小児の在宅医療について | 平田 すが子 | 訪問看護ステーションゆりはま | 子供たちの障がいの種類と小児在宅医療の現状と課 題。在宅に移行する視点、家族支援やその他必要と なる支援について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| ★ 0204 | 7月8日(火) 9:00～10:30 10:40～12:10 *連続受講 | 認知症をきたす疾患への正しい理解 ----- 認知症予防のためにできること | う ら か み か つ や 浦上 克哉 | 鳥取大学医学部 保健学科認知症予防学講座 | 動画を通して認知症をきたす代表疾患を正しく理解す る。認知症の病態と、適切な薬剤管理を行うための使 用薬剤の作用機序を学ぶ。認知症とせん妄の鑑別を 理解し、看護師の役割を知る。 ----- とっとり方式認知症予防プログラムを中心に講義 | アレスコ棟6階 261 講義室 |
| 0205 | 7月31日(木) 10:40～12:10 | 神経系疾患 「訪問看護に必要な痙攣の診かた ～てんかん発作を中心に～」 | よ し お か し ん い ち 吉岡 伸一 | 鳥取大学医学部 名誉教授 | 動画を用いて、てんかん発作を中心に、訪問看護に必 要な痙攣の診かたや対処法を学びます | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

Ⅲ訪問看護に必要な技術

3. 在宅における医療処置管理

複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の病態・治療・看護について理解する。医療依存度の高い在宅療養者の病態・治療・看護を理解する。

終末期在宅療養者の病態・治療・看護について理解し、安全に行うための技術を習得する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | | 講義内容 | 講義室 |
|-----------|--|--|--------------------|---------------------------------|--|----------------------------|
| 0301 | 12月19日(金) 13:00～14:30 14:40～16:10 *連続受講 | ポータブルエコーによる全身管理 (講義・演習) | かとう まさひこ 加藤 雅彦 | 鳥取大学医学部保健学科 病態検査学 | 在宅でのポータブルエコーによる診断の有用性を知り、ポータブルエコーで観察すべきポイントを学ぶ。実際にエコーを使って操作法を体験する。 | アレスコ棟1階 在宅看護実習室 |
| 0302 | 7月17日(木) 13:00～14:30 14:40～16:10 *連続受講 | 在宅呼吸療法(講義) ----- 在宅呼吸療法とNPPV(講義・演習) | はせがわ ひろえ 長谷川 裕恵 | 鳥取大学医学部附属病院 呼吸療法認定士 | 呼吸器疾患の病態からADL指導や栄養管理のポイント、NPPVについて(適応やモード、皮膚トラブルなど)実際に呼吸器マスクの着用や機器の取り扱いなどを体験する | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0303 | 11月6日(木) 14:40～16:10 | 在宅における栄養管理の実際 | きじま えみ 木嶋 恵美 | 錦海リハビリテーション病院 管理栄養士 | 栄養アセスメント、栄養関連の在宅支援、訪問栄養食事指導の実際について学ぶ。 | 第2中央診療棟 シミュレーションセンター |
| ★ 0304 | 9月18日(木) 10:40～12:10 | がん性疼痛と看護 | やざま ともみ 矢間 友美 | 鳥取大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 | 疼痛のアセスメント・評価の方法、鎮痛剤の使い分け、鎮痛剤(麻薬)の副作用への対応や、レスキューの使い方や評価方法などについて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| ★ 0305 | 9月3日(水) 13:00～14:30 | 在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ～有効な口腔ケアの方法を学ぶ～(講義) | どい きょうこ 土井 教子 | どい歯科クリニック | 口腔のしくみと働き、異常、口腔内の観察方法、口腔内感染と全身疾患の関係、義歯の取り扱い、在宅療養患者(重症心身障がい児を含む)の口腔の問題などについて学ぶ | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |
| 0306 | 9月3日(水) 14:40～16:10 | 在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ～有効な口腔ケアの方法を学ぶ～(演習) | わたなべ やすこ 渡辺 靖子 | 鳥取大学医学部附属病院 診療支援技術部 歯科衛生士 | 事例を基に疾患別でのケアプランやケアの工夫、ケア用品の選択などについて講義。口腔ケアを実際に相互演習し手技を学ぶとともに患者体験をします。 | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |

| 講座 I D | 日時 | 講 義 名 | 講 師 | | 講 義 内 容 | 講義室 |
|-----------|---|-------------------------------|-------------------|---|--|----------------------------|
| 0307 | 9月3日(水) 10:40～12:10 | 呼吸ケア | ほそだ ゆきこ 細田 有紀子 | 鳥取大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師 | フィジカルアセスメントを活かした呼吸ケアとしての ポジショニング | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |
| 0308 | 7月24日(木) ✳10:30～12:00 | 【地域生活看護実践課程演習：公開講座】 (特別講義) | おかだ えつこ 岡田 悦子 | 米子医療センター 地域医療連携室看護師 | 疾患や障がいと共に生きる対象者が地域・在宅で 安心して生活していくための医療と生活を統合した 看護について学ぶ | アレスコ棟6階 262 講義室 |
| ★ 0309 | 7月17日(木) 10:30～12:00 | 在宅における感染対策 | かみなだ のぶこ 上灘 紳子 | 鳥取大学医学部附属病院 感染症管理認定看護師 | 手指衛生をはじめとした標準予防策について、在宅 における感染経路別予防策について | アレスコ棟6階 261 講義室 |
| 0310 | 8月5日(火) 10:40～12:10 | 在宅でのリハビリテーション | ほしやま のぞみ 星山 望 | 錦海川リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 作業療法士 | 在宅におけるリハビリテーションについて基本的な流 れ、理学療法、作業療法、言語聴覚療法について 実践方法を学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0311 | 11月12日(水) 13:00～14:30 14:40～16:10 | 在宅における皮膚ケア(案) | ふじい かおり 藤井 香織 | 鳥取大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 在宅での褥瘡予防、皮膚ケア、ストーマケアについ て最新情報を学ぶ | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 在宅における皮膚ケア(案) | | | | |

☆看護部コース研修

(※参照 R6 年度実績 R7 年度は別途ご案内します)

| ID | コース名 | | | 講義内容 | 講義室 |
|------|--------------|----------|---------|--|----------------------|
| 0312 | 【褥瘡ケアコース】 | 単回の受講は不可 | | 褥瘡発生概念・要因分析、予防・管理、スキンケア、栄養管理など症例検討や演習を交えて学ぶ | 医学部附属病院 会議室 3.4 他 |
| 0313 | 【糖尿病コース】 基礎編 | 単回の受講は不可 | | 日々変化していく糖尿病の治療法や看護の基礎を多職種の視点から知り日々の看護に活かす | 医学部附属病院 会議室 3.4 他 |
| 0314 | 【高齢者看護コース】 | 単回受講可 | 6/～ 全5回 | 高齢者・認知症患者を理解しその人らしさを尊重した看護の実践に役立つ内容 | 医学部附属病院 会議室 3.4 |
| 0315 | 【退院支援コース】 | 単回受講可 | 7/～ 全4回 | 退院支援のこんなこと、誰に聴いたらよいかわからない…疑問解消に向け楽しく学びます | 医学部附属病院 会議室 3.4 |
| 0316 | 【感染対策コース】 | 単回の受講は不可 | 7/～ 全7回 | 感染対策を推進する人材育成を目的とし、必要な知識・技術の習得を目指す | 医学部附属病院 会議室 3.4 |
| 0317 | 【人工呼吸器管理】 | 単回受講可 | 7/～ 全6回 | 人工呼吸器・NPPV の管理・看護、呼吸リハビリテーションなどの知識と技術の向上を目指します | シミュレーションセンター他 |
| 0318 | 【排泄ケア】 | 単回受講不可 | 8/～ 全3回 | 排尿・ストーマに関する基礎知識、アセスメントやケアに最低限必要な看護技術の習得を学ぶ | 医学部附属病院 会議室 3.4 |
| | | | | | |

4. 在宅薬剤管理

加齢による機能低下や複数疾患を有する療養者・医療依存度の高い療養者の在宅薬剤管理について理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講 義 名 | 講 師 | | 講 義 内 容 | 講義室 |
|----------|--------------------------|--|--------------------|--------------------|--|----------------------------|
| 0401 | 10月16日（木） 13:00～14:30 | 心不全および糖尿病における薬物治療と在宅 薬剤管理の注意点 | おおた ゆうき 太田 友樹 | 鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 | 高齢者の薬剤管理について、注意すべき副作用・服薬 中の指導・副作用発見のポイントや服薬管理における 看護師の役割を学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0402 | 10月16日（木） 14:40～16:10 | 痛みの評価と薬の使い方（在宅での麻薬管理 /残薬管理/PCA ポンプの使い方） | かや ぎ けいすけ 栢木 啓介 | 鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 | 在宅での麻薬管理、レスキューを使うタイミング、残薬 管理、PCA ポンプの使い方について | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0403 | 7月3日（木） 13:00～14：30 | 神経難病の治療と薬剤管理 （パーキンソン病を中心に） | わたなべ やすひろ 渡辺 保裕 | 鳥取大学医学部 脳神経内科学 | パーキンソン病の病態から使用薬剤と副作用につい て。適切な薬剤管理を行うための症状観察のポイント を理解する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

5. フィジカルアセスメント

在宅療養中に起こりえる症状の変化に対し、異常の早期発見、予後の予測、早期診断をするためにフィジカルアセスメントを実践する。フィジカルアセスメントの結果・情報を多職種と共有するために、観察結果を適切に言語化する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | | 講義内容 | 講義室 |
|-----------|---|------------------------------|-------------------|--|--|---|
| 0501 | 10月23日(木) 9:00～10:30 10:40～12:10 13:00～14:30 14:40～16:10 ※連続受講 | 呼吸・循環機能(基礎) | なかもと ゆうじ 中本 有史 | 鳥取大学医学部附属病院 特定看護師/ クリティカルケア認定看護師 | ・呼吸器系、循環器系のフィジカルイグザムについて理解し実践できるよう体幹を使用し学ぶ。 ・身体所見や検査から病態を把握しメンバーとコミュニケーションをとりながらアセスメントモデルを使用し、フィジカルアセスメントを行う。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター (昼休憩: 打合せ室) |
| | | 呼吸・循環機能(応用) | | | | |
| 0502 | 9月11日(木) 13:00～14:30 14:40～16:10 ※連続受講 | 脳/神経機能① | なかもと みさき 中本 美先 | 鳥取大学医学部附属病院 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 | 中枢神経系の全体像を理解し、代表的疾患を例に観察ポイントからフィジカルアセスメント技術について事例を用いて学ぶ。日常生活での予防や看護について学ぶ。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター |
| | | 脳/神経機能② | | | | |
| ★ 0503 | 11月6日(木) 13:00～14:30 | 感覚・運動・末梢循環機能及び心臓リハビリテーション(案) | いしが なつこ 石賀 奈津子 | 鳥取大学医学部附属病院 心臓リハビリ指導士 | 感覚・運動系のアセスメントに必要な基礎知識の理解。観察方法や末梢神経及び循環障害の評価、日常生活でのケア、予防について学ぶ。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター |

6. セルフケア支援

セルフケアのアセスメント、支援方法について理解し、実践できる。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | | 講義内容 | 講義室 |
|----------|------------------------|------------------------|------------------|--------------------------|---|-----------------|
| 0601 | 6月12日(木) 9:00～10:30 | ※必須 訪問看護実践に役立つ概念・理論 | にしな ゆうこ 仁科 祐子 | 鳥取大学医学部 保健学科 地域・精神看護学 | セルフケア、ICF(国際生活機能分類)、意思決定支援、継続看護マネジメント等の理解を深め、自分の実践にどのように活用できるかを考える。 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |

7. 家族支援

家族の意思決定支援、家族のセルフケア能力の基本を理解する。家族看護における看護職の役割を知る。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | | 講義内容 | 講義室 |
|----------|--|------------------------------------|--------------------|-------------|--|----------------------------|
| 0701 | 12月5日(金) 9:00～10:30 10:40～12:10 *連続受講 | 家族看護とは何か | みなみまえ けいこ 南前 恵子 | 元鳥取大学教授 | 家族の概念、家族看護の必要性、家族看護での家族と看護者の役割、家族看護の基礎となる理論について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 家族の意思決定支援 | | | 障害児と高齢者の介護場面における意思決定支援について、事例をもとに考える。 | |
| 0702 | 11月17日(月) *13:00～14:30 | 【家族看護論：学内聴講】 家族看護支援専門看護の役割と高度実践 | 中井 美喜子 | 家族支援看護専門看護師 | 家族支援専門看護師、CNS の役割、高度実践について学ぶ。 | アレスコ棟6階 262 講義室 |
| 0703 | 11月17日(月) *14:50～16:20 | 【家族看護論：学内聴講】 家族支援専門看護師の活動の実際 | | | 家族システム、家族アセスメント、計画、介入、評価など展開する方法を学ぶ | |

*0702、0703の開講決定(10/1)

8. エンド・オブ・ライフケア

人生の終焉にある人々を対象とした死にゆく人やその家族へのケアについて理解する。「家で過ごすこと」、在宅の場で自分らしい人生の終焉を支えるケアについて理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講 義 名 | 講 師 | | 講 義 内 容 | 講義室 |
|----------|---|-----------------------------|------------------|--------------------------|--|----------------------------|
| 0801 | 10月7日（火） 13:00～14:30 14:40～16:10 ※連続受講 | エンド・オブ・ライフケア～死生観～ | おおば けいこ 大庭 桂子 | 鳥取大学医学部 保健学科 成人・老人看護学 | 死の疑似体験（1人称の死）を通して、死生観と看護について思考する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | エンド・オブ・ライフケア 看取りのケア～臨死期～ | | | 臨死期に焦点を当て、対象となる方を全人的に捉える視点や家族へのケアの視点について確認し、看取りケアについて振り返り、学びを深める。 | |
| 0802 | 8月20日（水） 10:40～12:10 | 地域・在宅での死を考える | よしの やすこ 吉野 靖子 | 認知症の人と家族の会 看護師/介護支援専門 | 臨死期に関わる際の心構えとグリーフケア・ACPについて理解を深める。実際の在宅の現場での関わりを知ること、ターミナルケアと家族への対応について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

9. 対人関係

実践の場において、何らかの問題に直面している対象に対して、対象者の話を聴きながら、共感的に対象の経験や気持ちを理解しようとする上で必要な面接の機能や進め方など基本的な知識や技法について理解する。

| 講座 I D | 日時 | 講 義 名 | 講 師 | | 講 義 内 容 | 講義室 |
|-----------|---|--|-----------------|-----------------------------|---|----------------------------|
| 0901 | 7月31日(木) 13:00～14:30 14:40～16:10 ※連続受講 | 自己理解、他者理解と相互作用 | たかま 高間 さとみ | 鳥取大学医学部保健学科 地域・精神看護学講師 | 自己理解を深めるワークを通し、援助的対象関係を深めるコミュニケーションのヒントを見つけます。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 感情労働と患者―看護師関係 | | | 感情活用や感情労働について学び、援助的対象関係における関係性のアセスメントを深めます。 | |
| 0902 | 12月5日(金) 13:00～14:30 14:40～16:10 ※連続受講 | コミュニケーションスキル ～精神疾患を持つ人との コミュニケーションの視点(事例展開)～ | たかだ くみ 高田 久美 | 南部町訪問看護ステーション (精神科認定看護師) | 精神障害を持つ人の理解、支援のポイント、ケアに必要な視点等について学ぶ。演習を通してコミュニケーションの原則を再確認する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 在宅看護の難しい場面への対応 ～対人関係と精神看護～ | | | 対人関係の理解とアセスメントする方法や患者-看護師間で起こりやすい問題を分析し、事例を通してコミュニケーションの方法について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

＊DVD学習（※10～12：認定看護師教育課程 共通科目）

※貸出を希望される方は、在宅医療推進支援室（T－HOC）までお申し出ください。

10. リーダーシップ

集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について理解する。

実践の場において、質の高い看護ケアを提供していく上で必要な認定看護師のリーダーシップの役割について考察する。

| I D | 講 義 名 | 講 師 | 撮影年月 |
|------|---------------------------|--------|-------------|
| 1001 | リーダーシップ理論 | 徳田 順子 | 2015 年 9 月 |
| 1002 | 組織変革／変革理論 | | 2015 年 9 月 |
| 1003 | 認定看護師に求められるリーダーシップ【上巻・下巻】 | 中村 真由美 | 2015 年 10 月 |
| 1004 | リーダーシップとグループマネジメント【前編・後編】 | 藤井 春美 | 2015 年 10 月 |
| 1005 | リーダーシップ理論を臨床に応用した事例展開【前編】 | 佐々木佐登美 | 2015 年 10 月 |

11. 指導

組織内外の看護者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を養う。

| I D | 講 義 名 | 講 師 | 撮影年月 |
|------|------------------------|-------|-------------|
| 1101 | 生涯教育理論【前編・後編】 | 深田 美香 | 2015 年 10 月 |
| 1102 | 成人学習理論【前編・後編】 | | 2015 年 10 月 |
| 1103 | 成人学習者の特性と教育指導計画【前編・後編】 | | 2015 年 10 月 |

12. 看護倫理

実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自己決定を尊重した看護を提供するため、看護倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。

| I D | 講 義 名 | 講 師 | 撮影年月 |
|------|---------------------------|-------|-------------|
| 1201 | 医療と倫理 倫理原則【①～③】 | 安藤 泰至 | 2015 年 9 月 |
| 1202 | 医療と倫理 インフォームドコンセント | | 2015 年 9 月 |
| 1203 | 医療と倫理 尊厳死・安楽死の概念 | | 2015 年 9 月 |
| 1204 | 看護倫理の理論的基礎【前編・後編】 | 笠城 典子 | 2015 年 10 月 |
| 1205 | 看護における倫理的ジレンマとその分析【前編・後編】 | | 2015 年 10 月 |

13. 看護技術

| I D | タイトル | 収録内容 | 製作・著作 |
|------|--------------------|--|------------------|
| 1301 | 在宅看護・訪問看護の基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の技術 ・多職種連携 ・コミュニケーション ・環境整備 | メディカ出版 |
| 1302 | 在宅療養生活における基本的な技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活リハビリテーション ・感染予防 ・ターミナルケア ・排痰ケア | メディカ出版 |
| 1303 | 療養を支える技術/栄養ケア・呼吸ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養法（経鼻経管栄養法・胃瘻） ・輸液管理（中心静脈栄養法・末梢静脈栄養法） ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸法（NPPV・TPPV） | メディカ出版 |
| 1304 | 療養を支える技術/排泄ケア・皮膚ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・排尿ケア ・ストーマ管理 ・褥瘡管理 ・フットケア | メディカ出版 |
| 1305 | 在宅療養における災害対策と自己管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・インスリン自己注射管理 ・在宅CAPD管理 ・在宅療養における災害対策 ・地域包括ケアシステムにおける災害対策 | メディカ出版 |
| 1306 | とっとり方式認知症予防プログラム | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動編 2. 座学編 | 鳥取県×日本財団共同プロジェクト |

IV訪問看護に必要な知識の習得のための研修会や学術集会参加

14. 訪問看護に関する学会、研修会等

※訪問看護に関する学会、研修会及び各自が有益と考える会に出席される場合は事前に支援室までご連絡ください。参加された方は、受講証明書及び報告書（次ページ参照）、プログラム、チラシ等を支援室に提出してください。

※受講時間数への換算は、実際に参加された研修会等の内容・時間を審査して支援室が決定いたします。最大2コマまで換算できます。

| 学会名・研修会名 | 開催場所 | 講師 | 備考 |
|-------------------|--------|------------------------------|----|
| 第16回 T-HOC 特別セミナー | 県立厚生病院 | 孫 大輔 氏 谷口 和子 氏 瀬尾 勇仁 氏 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

記載例

鳥取大学医学部附属病院「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」 受講証明書および報告書

| | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 受講生番号 | 〇〇〇〇〇 | 受講生氏名 | 〇〇〇 〇〇〇 |
|-------|-------|-------|---------|

《受講証明書》

| | |
|-----------------------------------|--|
| 受講日時 | 令和7年2月22日(土) 10:00~16:00 |
| 会の名称 | 第9回 鳥取県実践が活きる看護診断研究会 |
| 開催場所 | 鳥取大学医学部記念講堂 |
| 種別(該当するものに○) | 特別講演 <input checked="" type="radio"/> 教育講演 <input type="radio"/> セミナー <input type="radio"/> シンポジウム 研修会 <input checked="" type="radio"/> その他 <input type="radio"/> |
| 主催者 | 鳥取県実践が活きる看護診断研究会 |
| 主催者または受付担当者のサイン欄 (参加証のコピーでも可)* | |

《報告書》

【研修会等の受講による成果】

- 〇〇大学医学部地域医療教育研究センター△△△△教授の教育講演「看護過程と看護の可視化」に出席した。問題解決思考として、在宅復帰に向け、患者・家族の思いを汲んだうえで、病気をもつ生活者として捉えた患者情報から適切なアセスメントを行い、適切な看護診断のもと看護計画を地域につなぐための具体的な思考方法を得ることができた。
- ワークショップ、研究発表に出席した。地域で暮らす生活主体として対象をとらえて、看護を継続していくための工夫について多くの示唆が得られ、自分が所有する施設でも活用していきたい。

| | | | |
|---------------|---|---|-----|
| 在宅医療推進支援室：受付日 | 月 | 日 | 確認欄 |
|---------------|---|---|-----|

*本受講証明書および報告書は、鳥取大学医学部附属病院看護師育成プログラムⅢ訪問看護能力強化コース受講生が、貴会主催による研究会などに参加したことにより、講義の受講数として加算するための証明書です。

お手数ですが、受付担当者のご氏名を、サインしていただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ：鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室 TEL:0859-38-6994

★報告書用紙は、在宅医療推進支援室（T-HOC）までご連絡いただくか、ホームページからダウンロードできます。

【検索：鳥大在宅】▶ 鳥取大学医学部附属病院 在宅医療推進のための看護師支援事業
▶ 各種提出書類 ▶ Ⅲコース選択講義：【学会等】受講証明書及び報告書（Word・PDF）

《お問い合わせ》

鳥取大学医学部附属病院医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室（T-HOC）

電話：0859-38-6994

FAX：0859-38-6996

問い合わせフォーム↑

